

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

|       |       |
|-------|-------|
| 都道府県名 | 岐 阜 県 |
|-------|-------|

学校の概要(平成15年4月現在)

|     |           |    |    |    |              |    |      |       |     |
|-----|-----------|----|----|----|--------------|----|------|-------|-----|
| 学校名 | 美濃市立美濃小学校 |    |    |    | フロンティアティーチャー |    |      | 今井 正代 |     |
| 学 年 | 1年        | 2年 | 3年 | 4年 | 5年           | 6年 | 特殊学級 | 計     | 教員数 |
| 学級数 | 2         | 2  | 2  | 2  | 2            | 3  | 1    | 14    | 28  |
| 児童数 | 60        | 73 | 64 | 77 | 66           | 87 | 3    | 430   |     |

研究の概要

1. 研究主題

|   |
|---|
| できる・分かる喜びを味わう 学習過程の工夫と改善<br>～指導・援助と評価の工夫～ |
|---|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語(1年生, 3年生, 5年生, 6年生)<br/>「豊かな学力を身に付け、よりよい生き方をめざす子の育成」を研究主題に、研究実践を進め、昨年度は特に、国語科の「話すこと・聞くこと」の領域に視点をあて、自分の考えをもち、相手に分かるように伝える能力の育成に力を注いだ。この研究により、発達段階をふまえた願う児童の姿と、その具現のための方途を明確にするとともに、単元指導計画のモデルをつくることができた。本年度は、この成果をもとに、さらに「五つの言語意識」を位置付けた魅力ある教材開発を推し進めたいと考えた。</li> <li>・算数(2年生, 4年生, 特殊学級)<br/>昨年度、一学級の人数が多い3年生において少人数指導を、習熟の程度に差がより顕著になってくる4, 5, 6年生においてTTを行う体制を組み、授業を行った。3年生では「授業に集中できる」「発表回数が多くて嬉しい」「よく分かるようになった」という声が寄せられ、児童は少人数指導に魅力を感じていた。TTを行った学年では、特に習熟の差が大きく表れる「数と計算」領域において、終末段階や単元末において習熟の程度に応じたコース別学習を行い、児童から、できるようになって嬉しい、どんどん進めることができ楽しいなどの声が寄せられた。本年度は、昨年度の実践をもとに、少人数指導・TTのそれぞれのよさをふまえ、学年の発達段階及び学習内容に応じて授業形態を工夫したいと考えた。</li> <li>・理科(3, 6年生)<br/>理科学習において、児童から問題に対して予想や仮説を確かめる方法がいくつか出された場合や学んだことから生まれたをもとに興味・関心に基づき、更に追究したい内容がいくつか出された場合において、複数の教師による指導体制があれば、実現可能であったり、児童の活動に応じ指導を入れることによってより深く追究させたりできることがあった。これら方法別、課題別学習における指導形態を工夫したいと考えた。</li> </ul> |
|--|

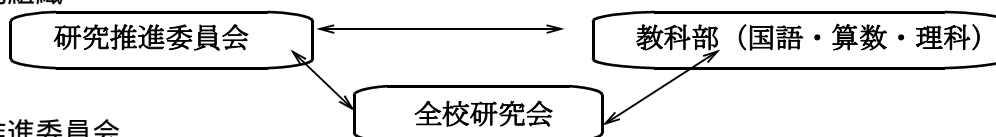
(2) 年次ごとの計画

|        |   |
|--------|---|
| 平成15年度 | テーマ 個に応じた指導・援助<br>教材・学習活動 授業形態(少人数指導やTT) 自ら学ぶ環境<br>研究の見通し<br>めざす児童の姿及び研究内容の明確化と具体化、授業研究を通しての検証<br>研究の内容・方法<br>教材・学習活動<br>{ 国語・・・五つの言語意識の位置付けに向けた魅力ある教材開発<br>算数・・・レディネステスト等を利用してつかんだ児童の実態にもとづく単元構成<br>理科・・・課題意識のもたせ方の工夫<br>授業形態(少人数指導やTT)<br>国語・・・リハーサルにおけるコーナー学習でのTTの在り方<br>算数・・・学年の発達段階及び学習内容に応じた授業形態の工夫<br>理科・・・課題別・方法別学習における少人数指導の工夫<br>自ら学ぶ環境づくり<br>・学び方の指導 ・コーナー学習 ・既習学習が分かる掲示物の工夫 |
|        | テーマ 個に応じた指導に生かす評価の工夫<br>研究の見通し<br>児童の学力の伸びや課題を明確にし、指導を即時的にする評価活動の改善と工夫<br>研究の内容・方法  |

指導・援助に生かす教師による評価  
学習のプロセスに焦点をあてた児童による自己評価・相互評価

(3) 研究推進体制

研究組織



研究推進委員会

校長、教頭、教務主任、研究主任、副研究主任、国語・算数・理科の教科部長で組織し、研究推進の基盤づくりを行い、研究内容や方法について各教科部へ提案する。全校研究授業の際には、授業者を交えて、各教科部提案の全校研究授業の主張点及び授業案について検討を行う。

教科部会

授業を行う教職員全員が必ずいずれかの教科部会に所属し、研究推進委員会の方針を受け具体的な指導・援助の工夫や教材開発、実践の評価を行う。会は教科部長を中心に随時行う教科部員の配置にあたっては、「日々の授業実践を大切に研究を積み重ねる」、「研究の効率化を図る」の2点から、同一教科・同学年で研究が進められるよう、配慮した。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

《個に応じた指導・援助》具体化に向けた視点の共通理解

教材・学習活動について

その単元で児童に付けたい力、それに関わる児童の実態をもとに、児童の問題意識や願いの連続性や発展性を考慮して単元教材・学習活動の工夫を図り、具体的な児童の姿で評価規準を作成することができた。この評価規準をもとに、評価規準に達しない児童への指導・援助の手だてを明確にし、授業においては、達成状況を見極めながら、個に応じた指導・援助を行うことができた。

ねらい、課題、学習活動、評価規準の一貫性に基づく授業をめざし、指導と評価の一体化を図ることを配慮した授業づくりをすることができた。

授業形態（少人数指導やTT）

児童にとってどんな意味があるのか、児童にどんな力がつくのかという意図を明確に、発達段階及び学習内容に応じて授業形態を工夫した。一単位時間の終末段階や単元末で行う習熟の程度に応じた指導に加え、個人差や達成状況に応じ、授業の各段階に導入することができた。

自ら学ぶ環境づくり

研究を二カ年にわたり複数教科で継続することを考え、それぞれの教科における学び方を教師が共通理解し、所属教科外の授業においてもその学び方をもとに授業を進め、研究の積み上げを図った。

学び方、単元の学習計画、既習内容に関する掲示物等を使い、児童が単元の見通しをもち学び方を意識しながら学習を進めていくことができるようにした。

国語部

教材・学習活動・五つの言語意識の位置付けに向けた魅力ある教材開発

他教科、他領域につなげ、明確な目的意識をもたせる教材の開発

(例1) 学校図書館祭りにつなげた活動

(例2) 他の教科につなげた活動

3年生「名前を付けよう」体育のポートボールの学習とつないで

5年生「子ども環境会議を開こう」4月より継続中の総合的な学習とつないで

自分の考え作りを手助けする学習活動の工夫

6年生「学級討論会をしよう」において

自分の立場や意図をはっきりさせて話す力を付けるため、役割を明確にしたグループ分けを行い、自分たちの弱点となる資料も集め、相手の主張を予想した上で、自分たちの主張を考える活動を設定した。

授業形態について

A領域の役割別のTT、少人数指導のモデルをつくることができた。

TTの様々な工夫

学習のねらいや活動に合わせ、導入において、コーナー学習において、児童の役割に合わせて、と様々な形態のTTを実践した。五年生「言葉の研究レポート」では、学年で学習活動を進め、調べたい内容に合わせて、児童が自分に合ったコーナーを選択できるようにし、それぞれのコーナーに合った指導・援助を行った。

少人数指導への見通し

今年度、様々なTTを試みたことで、学年の発達段階をふまえた少人数指導への見通しをもつことができた。

〔低学年〕生活班を基本とする少人数指導

〔中学年〕言語活動の目的にあった少人数指導

〔高学年〕課題別少人数指導

算数部

教材・学習活動

児童の意識の連続性を考慮した単元構成を行い、特に「数と計算」領域においては、既習問題と未習問題との相違点を明らかにし、児童とともに学習計画を立てることによって、児童が単元全体の見通しをもてるようなオリエンテーションの時間を単元始めに位置付けた。

また、その単元で身に付けさせた力に関するレディネステストを利用してつかんだ児童の実態にもとづき、単元構成を工夫した。

【例】2年生「かけ算(1)」

新しい概念を理解するのに時間を要する児童が多いことをふまえ、乗法の意味を式と操作の結び付けを図りながら理解し、生活場面で実感的にとらえることができるように、具体的操作を伴った「かけ算ワールドのお店やさんごっこ」を3、4時に位置付けた。また、2つの量の関係を表す倍の概念を乗法の意味理解が十分できた単元末に設定したり、連続量をもとに倍の意味を知り、かけ算の意味を深める「なんばい」の学習で、長さという連続量でもかけ算が適用できることを取り扱うことにした。

授業形態(少人数指導やTT)

2年生では、発達段階を考え、各学級でTTを基盤にした授業づくりを行った。1学期は、個人追究と練習問題に取り組む場面で「先生といっしょに考えるコーナー」をつくり、子に合った指導を行った。2学期は、先生と一緒に考えるコースを設定し、自力解決する過程を大切に、個に応じた指導の手だてと即時的評価を行うことにした。さらに、随時、TT形式の学級集団、習熟度や理解度別学習集団、均質学習集団を編成し、各時間のねらいに合ったねらいに応じた指導をした。

4年生では、昨年度均質集団による少人数指導を年間を通して行った経緯をふまえ、1学期の「数と計算」領域では、生活班を基本にした少人数指導を実施する一方、教えることが多い「円と球」「折れ線グラフ」ではTTを取り入れたり、習熟を図る時間にコース別学習を位置付けたりした。2学期は、多くの児童(95%)の「コース別学習は、よく分かってよい。」という評価に基づき、単元全体についてコース別少人数学習を導入した。コース決定にあたっては、レディネステストをもとに家庭で相談するようにし、保護者へも周知を図った。このコース別学習についてアンケートをとったところ、「もっとふやしてほしい。」と答えた児童が29%、「このままでいい。」と答えた児童が61%をしめ、児童がコース別学習を肯定的に受け止めていることが分かった。

自ら学ぶ環境づくり

1学期は、算数の学び方を育てるため1単位時間の学習過程の視覚化を行い、既習学習との相違点をもとにした課題化を意識付けた。操作の手順、答えを導き出すまでの思考過程を言語化する活動を大切にした。2学期は、1時間の学習を振り返り、どんなことが分かり、どんなことができるようになったのかを自分の言葉でまとめる活動を大切にした。

理科部

教材・学習活動

課題意識をもたせるため、多面的な追究ができるような環境構成(別の方法で実験して確かめるコーナーの設置、観察対象を手元において追究できる準備)や児童の興味・関心を高める学習活動(教材となる植物を自分たちで栽培する活動の位置付け)を行った。2学期はより主体的に実験に関わり、どの子どもが予想と関わらせてじっくり観察できるよう、少人数グループを構成するなど、学習活動を工夫した。

授業形態(少人数指導やTT)

発展学習・補充学習を行う際の課題別・方法別学習において少人数指導を行った。さらに科学的思考・習熟の程度に応じる場面において、ねらいに合わせ、評価規準達成に向けたT1・T2の役割分担を明確にしたTTの工夫を図った。具体的には、T1は多面的に追究している児童を見付け、その考え方を全体に広める指導・援助を行い、T2は、評価規準を達成するために配慮を要する児童へ問い掛け、同じグループの児童の反応を拾い、配慮する児童へ返していく指導・援助を行った。

自ら学ぶ環境について

理科ノートにプリントを使い、学び方についての指導を行った。このことにより、1単位時間の学習過程を児童が理解し、指示を待つことなく予想や考察を書く姿が見られるようになった。観察プリントを作成し、教師が児童のよさを認め広めるとともに、観察の観点を広める指導を行ったことで、手触りやにおいなど五感を使用した観察ができるようになった。

## 2. 今後の課題

- ・ 教科の本質に根ざした学び方を教員が共通理解して来年度4月当初から指導できるよう、各教科部会で再度検討する。
- ・ 児童が、できる・分かる喜びを味わっているのか、少人数指導やTTをどう受け止めているのかという意識調査を定期的に行い、指導・改善に生かす。今年度末には、全学年研究対象教科について意識調査を行い、来年度の比較資料とする。
- ・ 各教科において本年度実施した、学習のプロセスに焦点をあてた児童による自己評価の観点を交流し、来年度への見通しを立てる。
- ・ 学校再編成で教育に対する保護者の関心が高まることが予想される来年度、どんな学習活動をどんな意図で行っているのかを保護者へ知らせる活動をどんな体制で行っていくのか検討する。

### 学力等把握のための学校としての取組

#### 【美濃市の全小学校5,6年生対象の学力調査】

調査の目的 児童の学力を客観的に把握し、その課題を明らかにするため

実施内容 国語・算数・理科・社会

時期等 平成16年2月頃を予定

#### 児童による授業評価】

調査の目的 単元末・学期末に授業評価を行い、授業改善に生かすため

実施内容 2,4年生の算数において、アンケートと学力調査(単元テスト・

期末テスト)を実施

時期等 各単元末及び各学期末

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

#### 美濃地区協議会・学力向上フロンティアスクール公表会(1年次)

日時 平成16年2月19日

場所 美濃市立美濃小学校

対象 美濃管内の各小中学校

会の目的 「確かな学力」の向上のための実践研究の取組を公開授業などを通じて、その成果と課題を普及するため

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |              |            |
|----------------------|--------------|------------|
| 【新規校・継続校】            | ✓ 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】               | ✓ 6学級以下      | 7~12学級     |
|                      | ✓ 13~18学級    | 19~24学級    |
|                      | 25学級以上       |            |
| 【指導体制】               | ✓ 少人数指導      | ✓ T・Tによる指導 |
|                      | ✓ 一部教科担任制    | その他        |
| 【研究教科】               | ✓ 国語         | ✓ 算数       |
|                      | 社会           | 理科         |
|                      | 生活           | ✓ 図画工作     |
|                      | 体育           | ✓ 音楽       |
|                      | その他          | 家庭         |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ✓ 有          | 無          |